

大学生の農業体験及び地域農業とのかかわり

発表者：新潟産業大学 文化経済学科4年 モリゲン

指導教員：経済学部金 光林教授

(1) アグリ・フードビジネス分野 金ゼミナールの地域活動

新潟産業大学経済学部文化経済学科のアグリ・ビジネス分野の金ゼミナールは、多年間にわたり、商品企画、地域観光資源のPR、地域の農業にかかわる活動を行ってきました。

その中で、今回は金ゼミの地域の農業にかかわる活動について報告を行います。

(2) 野菜栽培の始まり(2017年度)

2017年4月より柏崎市堀町内会の要望を受け、同町内会の約8アールの休耕田を活用し、野菜栽培を開始しました。そして無農薬栽培を実践しました。

2017年度には、じゃがいも、さつまいもを中心に栽培を始め、豊作を迎えました。

2017年10月には柏崎市内の「まちかど研究室」で柏崎市役所の農政課の担当者と市の農業関係者を迎え、「柏崎の野菜と地産地消」のセミナーを開催しました。

野菜栽培がきっかけとなり、新潟産業大学の学生たちが地域農業を身近に感じるようになり、地域の住民との交流を増やしました。

(3) 野菜栽培の本格化(2018年度)

金ゼミは2018年度より本格的に野菜栽培を始め、年間、数十種類の野菜・ハーブを栽培しました。

2018年4月より柏崎市の新道柿栽培団地の柿の木のオーナー制を利用し、おけさ柿の栽培にチャレンジしました。

2018年11月には新道柿栽培組合の関係者、新潟県地域振興局・柏崎市の農業関係者、柏崎観光協会の関係者を新潟産業大学に迎え、「新道柿栽培団地活性化セミナー」を開催し、また、2018年度にも野菜栽培を通じた堀町内会との交流を続けました。

(4) 野菜・柿栽培の自立化を目指して (2019・2020年度)

2019年度から新潟産業大学で1・2年次の「地域理解ゼミ」がスタートし、野菜・柿栽培には金ゼミの3・4年次の学生だけではなく、1・2年次の地域農業・六次産業化分野を学ぶ学生も大勢参加しました。

野菜・柿栽培の費用の自立化を目指し、2019年4月より柏崎市の「夢の森公園」内のエコハウスでの無人販売を開始しました。

2020年7月よりJA 柏崎の直売所「愛菜館」に野菜・柿を出荷し、販売開始しました(1袋・1束百円均一で販売)。

2019年度に11万円の売り上げ、2020年度に20万円の売り上げで、野菜・柿栽培の自立化を実現しつつあります。

(5) 地域の農産物の広報活動

2018年10月に柏崎の新道柿栽培団地のおけさ柿をPRするために「豊饒な秋の贈り物—新道柿」パンフレット4000部を制作し、各地に配布しました。

SNS（ツイッター・facebook・WeChat など）を活用し、野菜・柿の栽培過程を紹介しながら、地域の農産物の広報を行いました。

特におけさ柿・雪下大根・体菜などの特色のある地域の野菜・果物の広報に力を入れ、2020年にはSNSを活用し、首都圏でおけさ柿・雪下大根を広報、販売しました。

2020年度に柏崎市の「夢の森公園」と連携し、菜園を地域のこどもたちの農業体験の場として活用しました。



【堀町内休耕田 野菜の栽培活動】



【新道柿の栽培活動】

(6) 野菜・柿栽培の今後の課題

新潟産業大学の学生たちの農業体験の場としてさらなる活用をします。

「夢の森公園」との連携により、こどもたちの農業体験の場として活用します。

無農薬栽培の継続、栽培技術の向上が必要です。そのために新潟県地域振興局の農業専門家の技術指導を受ける予定です。

「夢の森公園」「JA 柏崎愛菜館」での野菜・柿の販売を継続します

地域の特産物であるおけさ柿・雪下大根などのSHSを通じた広報活動を続けます。



【夢の森公園のエコハウス内での野菜の無人販売】

* [新潟産業大学経済学部 金ゼミ 活動紹介 - YouTube](#)